

## 【事業名称】

日中友好交流都市中学生卓球交歓大会

## 【開催日時】

2012年8月17日～20日

## 【開催場所】

中国北京市・中国オリンピックセンター体育館

## 【主催者・共催者等】

（主催）公益社団法人日中友好協会、公益財団法人日本卓球協会、中日友好協会、中国人民対外友好協会、中国卓球協会（協賛）全日本空輪など（後援）外務省、文科省、総務省、財団法人自治体国際化協会、朝日新聞、共同通信など

## 【事業内容】

友好都市卓球大会は、中国交正常化の記念事業としては5回目、中学生大会は2回目。大会のテーマは「友好第一」で、日中の対戦ではなく、日中の友好都市から男女各1人を出し合った計4人の「日中混成チーム」で対戦する。日本から83チーム397人、中国から同数のチーム419人が参加し、熱戦を通じて、北京に大きな友情の花を咲かせた。

競技は男女シングル4戦と混合ダブルス1戦で競う団体戦方式で行われた。出場チームは5ブロックに分かれ、まず予選リーグに参加。上位2チームが、各ブロックの決勝トーナメントに進み、しのぎを削った。

17日午前の開会式には、色鮮やかなユニフォームに身を包んだ選手たちが入場した。中国側主催者を代表して、唐家璇中日友好協会会長が挨拶し「大会を通じて、両国青少年の心の絆が強化されることを期待する」と激励した。日本側代表の酒井哲夫（公社）日中友好協会副会長は「若い力を率直にぶつけて交流してほしい」とエールを送った。その後、東京都―北京市チームの竹内嘉菜さんと王潤博君が「大会を通して友情を育み、日中両国の友好交流のため、共に努力していきましょう!」と力強く選手宣誓し、熱戦の幕が上がった。開会式には、来賓として丹羽宇一郎駐中国大使も出席し、「大会を通じて多くの絆を結んでほしい」と期待した。このほか日本側から村岡久平（公社）日中友好協会理事長、木村興治日本卓球協会副会長、北原巖男 2012「日中国民交流友好年」実行委員会事務局長ら、中国側から井頓泉中日友好協会・中国人民対外友好協会副会長、徐寅生中国卓球協会名誉副主席らが出席した。

今大会には「初めて北京を訪れた」「初めて中国（日本）の友達ができた」という選手が多く、いわき市―撫順市チームの鄒瑛琪さんは「とてもいい大会だった。日本の選手とも交流できた。いい人たちだと思った」と、同チームの小野智佳子さんは「中国に

来られて、中国の選手と仲良くなれてよかった。日本に帰ったらみんなに自慢したい」と話した。

大会は、福岡県一江蘇省、松本市一廊坊市、鹿児島市一長沙市チーム、長野市一石家荘市、市原市一中山市チームがブロック優勝に輝いた。

表彰式及び閉会式は 20 日の午後、人民大会堂（日本の国会議事堂に当たる）の大宴会庁で開かれた。全チームの代表が登壇し、記念品を受け取った。李小林中国人民対外友好協会会長、大林剛郎（公財）日本卓球協会会長が大会を総括した後、選手を代表して長野市一石家荘市チームの耿舒鵬君と、松本市一廊坊市チームの柳沢菜歩さんが感想を述べ、柳沢さんは「多くの中国の仲間と絆を深めることができたのが何より嬉しい」と話した。閉会式後は、交流宴会を催した。

また、最終日の 20 日には、大会に参加した選手・スタッフら全員で「万里の長城」を参観し、思い出をつくった。



開会式



開会式



酒井副会長



丹羽大使



唐家璇会長



選手宣誓



男女混合・ダブルス試合



閉会式



表彰式